

令和6年度 新潟県立近代美術館協議会 評価報告

令和7年7月 31 日

【美術館活動全体の協議会評価】

新潟県立近代美術館・万代島美術館における評価は、展覧会、教育普及、調査・研究・収集・保存・発信、環境・施設、協働組織等を柱としており、それぞれの分野で具体的な目標を設定し、分析を行い、具体的評価が実施されています。主な取組に対して前年の活動を踏襲しつつ、達成を実現化するために努力したことは大いに評価されるべきと考えます。しかしながら、自治体の予算が限られる中で、美術館に割り当てられる予算も同様に減少していること、また、今日的な社会課題（包摂性、多様性、持続可能性、コミュニティの参加等）に対する解決策を求められる中、独自の展覧会や各種イベントの実現が難しくなっていることに懸念を抱いています。もちろん、この状況において新たな美術館活動の各分野との横断的な関係が生まれ、それぞれの課題に対処する機会が提供され始めました。NIIGATA アートリンクや大学との連携講座、あるいは様々なワークショップの実践はその表れと言えるでしょう。これらは美術館独自の動きとともに他領域、そして他者との協働が実を結んだとも言え、関係者の努力の賜物であると考えます。

今後も美術館にとって厳しい状況が続くことが予想されます。新潟県立近代美術館、万代島美術館ともに社会的使命を実現するためには、美術館の関係者にとどまらず県民も巻き込んでいくことが重要です。美術館が日常生活のすぐそばにあること、そして県民それぞれにとって「自分たちの美術館」となることが、困難な状況を解決する手がかりとなることでしょう。

新潟県立美術館の社会的使命及び運営方針

【社会的使命】

平成20年4月策定

広く新潟県民と新潟を訪れた人のために、
固有の文化の価値を見直し、
併せて未来に継承すべきコレクションの充実と研究、活用、普及を通じて、
多様な美術館活動を開発、提供し、
創造力溢れる人材の育成に取り組み、
地域の人々と協働しながら、
県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する。

【運営方針】

令和4年9月改定

- 1 県民の利用者拡充を図り、新潟県民の文化レベル向上に資する
- 2 心の憩いと学びの場を提供し、利用者に愛される美術館となる
- 3 新潟県の芸術文化の発掘・保存・発信の場となる
- 4 美術に関心ある人材の育成に寄与する
- 5 地域や各種教育機関との連携を深める

【評価の視点】

令和4年9月改定

評価分野	評価の視点
展覧会	①県民の利用者拡充を図り、新潟県民の文化レベル向上に資する展覧会を開催しているか。 ②多様な展覧会の開催によって、芸術文化をベースにした心の憩いと学びの場を提供しているか。 ③多様な展覧会の開催によって、美術に関心ある人材の育成に寄与しているか。 ④郷土の作家や作品の展覧会を開催し、新潟県の芸術文化の発掘・発信の場となっているか。
教育普及等	①県民の利用者拡充を図り、教育普及活動を行っているか。 ②展覧会活動とは別に、心の憩いと学びの場を提供しているか。 ③地域や各種教育機関と連携して、教育普及活動を行っているか。 ④美術に関心ある人材の育成に寄与しているか。
収集調査・研究・保存・発信	①学芸員の調査研究・発信によって学びの場を提供しているか。 ②地域や各種教育機関と連携して、調査研究活動を行っているか。 ③新潟県の芸術文化の発掘・保存・発信の場となっているか。 ④学芸員の調査研究・発信によって、美術に関心ある人材の育成に寄与しているか。
施設・環境	①作品の保存・展示に適した環境を、維持・整備しているかどうか。 ②利用者が快適に利用できる環境を、維持・整備しているかどうか。
協働組織	①県民の利用者拡充を図り、協働を実施しているか。 ②地域や各種教育機関など、外部との協働によって、連携を深めているか。 ③多様な組織との協働によって、美術に関心ある人材の育成に寄与しているか。

参考【県の上位方針】

「新潟県文化振興条例」

*令和6年4月1日施行

前文：「文化はいつの時代においても、人々の心に潤いや安らぎ、精神的な満足感をもたらし、心豊かに生活を送る上で重要な役割を果たしている。

第2章【文化の振興等に関する基本的施策】

- (芸術の振興) 第9条：文学、音楽、美術、工芸、デザイン、写真、演劇、舞踊その他の芸術の振興を図るため、これらの芸術の公演、展示等への支援、これらの芸術に関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるよう努めるものとする。
- (文化に対する関心及び理解) 第13条：県民の文化に対する関心及び理解を深めるように、普及啓発その他の必要な施策を講ずるよう努めるものとする。
- (県民の鑑賞等の機会の充実) 第14条：広く県民が自主的に文化を鑑賞し、及び創造し、並びに文化活動に参加する機会の充実を図るため、文化の公演、展示等の実施、支援、記録の保管並びに情報の収集及び提供その他の必要な施策を講ずるよう努めるものとする。
- (文化施設の機能の充実等) 第15条：文化会館、博物館、美術館、図書館その他の自らが設置する文化施設を文化活動の拠点とし、文化の鑑賞、創造、学び及び交流の場としての機能の充実を図るとともに、それぞれの文化施設の特色を生かした文化に関する教育及び普及啓発その他の必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bunka/bunkajourei2.html>

「新潟県総合計画」

*平成31年4月策定／令和4年4月改定

第3章【新潟県のめざす姿】《基本理念》「住んでよし、訪れてよしの新潟県」

県民の皆様が、新潟の魅力・新潟らしさ「新潟ブランド」を意識し、新潟に住んでいることを誇りに思い、これからも住み続けたいと思える新潟県、そして、国内外の方々が新潟に魅力を感じ、訪ねてきていただける新潟県を目指します。

第4章 《将来像》Ⅱ 地域経済が元気で活力のある新潟

1 多様な人や文化が交わる賑わいのある新潟

1-(1) 多様な地域資源を活かした交流人口の拡大

③ スポーツと文化を活かした地域づくりによる交流拡大

「県内各地の地域文化や美術館、博物館等の観光資源、優れた芸術家等との交流を積極的に活用し、交流人口の拡大や地域の活性化を目指す

《将来像》Ⅲ 県民一人一人が学び、成長し、活躍できる新潟

1-(2) 地域の産業・社会を支える人づくり

① 未来の新潟に必要な人材の育成・確保 ② 生涯学び活躍できる環境づくり

1-(3) スポーツと文化の振興 ② 文化を通じた豊かな生活の実現

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/seisaku/sougoukeikakukaitei.html>

「新潟県文化振興ビジョン」 期間：平成29～令和6年度

*平成29年策定／令和5年7月改定

第1章【性格】文化芸術基本法第7条の2に規定する地方文化芸術推進基本計画

第2章【現状及び課題】

第3章【基本目標】文化で創る、心豊かな「ひと」、魅力ある「地域」……そして未来へ

- 【目指す姿】◆文化振興により、県民が地域文化を知り、地域に誇りと愛着を持つこと
◆文化活動への参画・参加及び創造により、県民が心豊かな生活を送ること
◆文化を通じた観光振興・交流拡大で、地域の内外の好循環が生まれること
⇒文化の力で新潟を活性化

【施策の5本柱】

柱(1) 大規模イベント等の機会を捉えた更なる文化振興

- イベント等を契機とした県民参加の拡大と文化の創造及び発信
- 文化分野におけるボランティア活動の活発化

柱(3) 文化活動への県民参加の拡大

- 優れた文化の鑑賞・参加機会の提供
- 子どもの文化活動の促進 ● 文化に親しむ場となる環境の整備

柱(5) 文化の保存、記録、継承及び活用

*柱(2) 地域文化の温故知新 *柱(4) 文化を通じた交流・発信の拡大

【ビジョンの評価】

(1) 成果指標 ④ 県立文化施設[近美・万美・歴博・自然科学館]への来館者数

*H23 72.5万人／H27 56.8万人／目標値(R6) 増加させる

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/bunka/bunkavision.html>

令和6年度 評価シート（近代美術館）

【重点取組1】

学芸員の日ごろの調査・研究の成果を披露し、また、それに基づいた学びの機会を提供する。

評価の視点

- 【1】【調査研究・収集保存・発信】①学芸員の調査研究・発信によって学びの場を提供しているか。
③新潟県の芸術文化の発掘・保存・発信の場となっているか。
- 【2】【教育普及】③地域や各種教育機関と連携して、教育普及活動を行っているか。
- 【3】【協働】②地域や各種教育機関など、外部との協働によって、連携を深めているか。

状況報告（3/31 現在）

■取組終了／□取組継続中

- 【1】 ■これまで集積してきた調査・研究、収集の成果として、自主企画展「日本が見たドニ | ドニの見た日本」「皇室の名宝と新潟」を開催。コレクション展で「旅する新潟」という新潟をテーマとした展示を行い、また相澤コレクションの「難波田史男」、亀倉コレクションを活用した「亀倉雄策と時代を拓いた作家」の展示を実施
 - 常設展関連講座（日本女性の姿、竹谷富士雄、亀倉雄策）や、企画展関連講座（ドニ、奇想の画家入門）を実施。HPに学芸コラム（文化財レスキュー、竹谷富士雄、ドニ、皇室の名宝と新潟、蒔谷虹児、亀倉雄策）を執筆
 - 学びの機会の提供として、外部講師講演会等4回（山下清展、ドニ展、皇室の名宝と新潟展）、出前講座44件、ワークショップ5回（コレクション展自由参加1回含む）、作品解説会13回（コレクション展11回、ドニ展2回）を実施
- 【2】 ■学校の教頭会での周知や出前講座など49件を実施
 - 長岡造形大と協力してワークショップを1回実施
- 【3】 ■大学との協働2件、留学生への講義1件、県立図書館での書籍コーナー設置1件、また友の会作品展に協力した。アートリンク主催で教員を対象に対話型鑑賞に関する研修会を実施

【自己評価】（年度末）

◎評価すべき点／▲検討課題

- ◎「日本が見たドニ | ドニの見た日本」展の開催は、これまで積み上げてきた学芸員の調査研究の成果であり、図録の執筆や講演会、講座の開催においても県民に学びの場を提供できた。巡回館である久留米市美術館との協働という点でも評価に値すると考える。
- ◎「皇室の名宝と新潟展」では皇居三の丸尚蔵館と協力しながら出品作や作家についての研究を深め、その成果を図録や講演会、作品解説会で県民に還元することができた。
- ◎その他、作品・作家に関連した現地調査や所蔵品に関する研究を、1年を通じて行い、その成果を、コレクション展示や美術鑑賞講座、作品解説会、出前講座、学芸コラム（HP）など多様な方法で県民に紹介した。

【協議会評価】（年度末／各委員執筆、美術館まとめ） ◎評価すべき点／▲検討課題

【評価すべき点】

- ◎一年を通じて、作品、作家に関連した現地調査や所蔵品に関する研究を行い、その成果を展覧会、美術鑑賞講座、作品解説会、出前講座、学芸コラム等、多様な方法で県民に学びの場を提供できたことは評価できる。
- ◎感染症などの近年のさまざまな社会的影響がある中でも積み上げてきた学芸員の調査研究の成果で充実した展覧会を開催し、さらに他美術館との協働で図録執筆や講演会を実現し、成果を地域に還元したことは十分に評価すべきものとする。また、調査研究できる環境を評価する。
- ◎長年の調査研究成果を、分かりやすく楽しみながら理解することができる展覧会と図録という形で紹介したこと、また、一般には馴染みの浅い分野の理解を深めるため、TV の紹介や様々な関連講座等で伝える工夫をしたことは、非常に高く評価できる。
- ◎企画展の観覧者数が前年度を大きく上回っていることから、多くの県民の嗜好に合致していたと言える。
- ◎近代美術館の出前講座により、教育現場に「対話型鑑賞」が着実に普及している。また、その教育的効果も認められているので、今後も継続していただきたい。
- ◎年間 52 週のうち出前講座や学校関係者への説明会等の開催回数 49 件というのは、毎週誰かがどこかに出向き、美術館やアートに関する情報を発信していることになり、素晴らしいと思う。美術に関心のある人材を育成する下地を形成し始めたと思う。
- ◎新潟県内に閉じず、他県の美術館と連携・協働した研究活動など、今後は作品を通じた交流（アートツアーの造成など）など新しい取組にも期待したい。

【検討課題】

- ▲企画展の講演会には多くの参加があり、調査研究の成果を知り、深く学びたいという愛好家が一定数いる一方で、来館者が目標数の半数以下であった点は大きな課題である。広報やマーケティング戦略の検討に加え、目標数の検討、来館者の内訳等を踏まえた分析等が必要である。
- ▲来館者層が限定的になりやすいと予想される、認知度の低い展覧会の発信について、マンパワーにも配慮しながら、外部機関との交流態勢も含めて検討が必要ではないか。
- ▲来館者の少なかった展示については、目玉となる作品が必要ではないか。

【重点取組2】

館改修工事も想定しながら、親子がふれあう美術館活動について探る。

評価の視点

【1】【教育普及】③地域や各種教育機関と連携して、教育普及活動を行っているか。

【2】【協働組織】③多様な組織との協働によって、美術に関心のある人材の育成に寄与しているか。

状況報告（3/31 現在）

■取組終了／□取組継続中

- 【1】 ■長岡市と連携して小学生への関心を広く促すため、「長岡市教育情報プラットフォーム」に展覧会等の情報を掲載
- 出前講座では、留学生（1件）、県内小中学校で実施（43件）
- 県の親子ふれあい事業の一環として、親子向けワークショップを実施（4件）
- 県の親子ふれあい事業の一環として親子のふれあいスペース「みちくさプレイス」の運用を11/8から開始
- 「親子ふれあいデー」での「おしゃべりタイム」の実施（9回）
- 【2】 ■博物館実習で5人を受け入れ
- 本年度も長岡造形大学との共催により長岡市内中学校美術部作品展を実施
- 11/10実施の親子向けワークショップは長岡造形大学との協働により実施

【自己評価】（年度末）

◎評価すべき点／▲検討課題

- ◎県の「子育て応援」を踏まえ、親子向けワークショップや「みちくさプレイス」の設置、「おしゃべりタイム」の実施など、子育て世代が美術館により親しみやすくなるような事業・環境づくりを一年を通じて行うことができた。
- ◎学芸員が実施することが多い親子向けワークショップであるが、今年度は長岡造形大学との協働により実施し、活動の幅を広げることができた。
- ◎小学校からの依頼が多い出前講座は、直接的に「親子向け」事業ではないものの、子どもの頃から美術鑑賞や美術館に関心を持ってもらう取組である。また担当学芸員が児童・生徒の反応を直接に体験できる機会ともなっており、その経験値が今後の親子向け事業に活用できると期待する。
- ▲「親子ふれあいデー」（R5～）「みちくさプレイス」（R6～）といった新しい事業は、県の施策に沿って今後より広く周知するとともに、各種教育普及事業と関連付けて取り組むべき課題である。
- ▲「おしゃべりタイム」について、アンケートには歓迎の声がある一方で「静かに見たい」という声もある。美術館という施設の将来像も見え据えつつ、幅広い世代が利用しやすい環境づくりを引き続き模索する必要がある。

【協議会評価】（年度末／各委員執筆、美術館まとめ） ◎評価すべき点／▲検討課題

【評価すべき点】

- ◎県の子育て施策を踏まえ、「親子向けワークショップ」「みちくさプレイス」「おしゃべりタイム」等の新たな試みを検討・実践しており、従来の美術館像に留まらず、これからの展開を模索している点が評価できる。
- ◎これらの新しい取組は次世代を育て、新たなファンを獲得する事業・環境となっていること、また、多様な立場の方々への配慮ある活動となったことも評価できる。
- ◎親子を中心に、様々な人とのふれあいの場へと進化してゆく可能性も期待できる。
- ◎小学校への出前講座は幼少期から美術鑑賞や美術館に関心をもつ人材の育成への貢献度が高い。特に、上越・魚沼地域等での出前講座の増加は、教頭会等での周知や講座内容の充実（ロコミ）等、これまでの努力の成果として評価できる。
- ◎長岡造形大学との協働によるワークショップを実施するなど、地域でアートを楽しむ環境づくりは評価できる。外部と協働するなど柔軟な発想で取り組んだことは、今後の活動の幅の広がりや働き方改革にもつながる取組になっていると考える。
- ◎「おしゃべりタイム」は可能性のある取組だと思う。解説やガイド、対話によって体験や思考が深耕することは、多くの人が実体験として経験がある。

【検討課題】

- ▲「おしゃべりタイム」のような新しい取組を浸透させるには時間がかかるかも知れないが、目的や事業内容を分かりやすく広報する工夫が必要。ネーミングを見直すだけで、ネガティブな意見は少なくなるように思う。多様性への配慮を大事にした取組になることを期待している。
- ▲企画展の内容により異なるとはいえ、美術館への家族での来館が増加傾向にある実態自体をもっともっと県民に周知し、従来の美術館のイメージを変えていくことで、問題意識の共有を図ることができる。
- ▲美術に関心のある人材の育成に寄与しているかという点では、活動の対象が親子で鑑賞する世代、小中学生までに偏りすぎていると思う。中学生以上から子育て世代につながる世代が空白期間となって関心が薄れないような取組も必要ではないか。
- ▲出前講座の件数が非常に多いが、職員の負担を増やすだけでなく、美術館での展示鑑賞につながるような工夫をして、実際の来館に繋げてほしい。
- ▲「ワークショップ」等は、美術や美術教育の専門家だけでなく、幼児教育機関等に協力を求めているかどうか。
- ▲学校等への招待・割引チケットの配布や近隣の県及び民間施設との割引等を検討してはどうか。
- ▲次の来館につながる試みがもう少しあると良いと思う。開館記念日などの特別な休みの日にきた子にはシールなど安価な記念品をあげるなど、楽しみを増やす工夫があつて良いと思う。

【通常取組】**【特記事項・最終】**最終報告： ☒取組終了／☐取組継続中

■令和6年度より「美術館・博物館コレクション収集・活用事業」として県の予算がつき、作品を購入（新収蔵のうち購入2点）。美術品収集予算を前提とした作品購入は21年ぶりとなる。

【自己評価】（年度末）

◎評価すべき点／▲検討課題

◎県ゆかり作家の代表作を2点購入することでコレクションの充実を図ることができた。作品購入を経験したことのなかった学芸員にとって、情報の収集や購入の手続きを経験する貴重な機会となった。

【協議会評価】（年度末／各委員執筆、美術館まとめ） ◎評価すべき点／▲検討課題

【評価すべき点】

- ◎21年ぶりの購入は画期的なことであり、購入のための予算を獲得し、県ゆかりの作家の作品を2点購入した点について大いに評価できる。コレクション展等で活用されることを期待する。
- ◎購入を計画的に進められたことは学芸員のスキルアップにもつながる機会となっていることを評価できる。
- ◎美術館は世の中の動向、調査研究によりコレクションを充実させ、次世代へ受継ぐ役割を担う。その意味において収集費がついたことは、健全な美術館運営が行われて喜ばしい。
- ◎新潟の美術の動向を作品を通して示せるコレクションを持つことが県の美術館として期待されるところだが、収集費がつくことで、本来次代に引き継ぐべき重要な作品を今後はコレクションできる可能性が高まり、このことは高く評価できる。

【検討課題】

- ▲長期にわたってコレクション購入の予算がつかないことは、美術館の独自性や存続意義、県民の文化水準の低下や学習機会の減少に関わる。継続的に県ゆかりの作家の作品収蔵を実施することが今後の検討課題である。
- ▲作品収集の予算を拡充するための方策を工夫して欲しい。
- ▲購入したことやその作品について、広く広報がなされていないことは問題である。
「21年ぶり」であれば県民の注目が集まり関心が高くなることで、このような危機的状況に対して、企業等から寄付の申し出等が期待できるかもしれない。

【その他、自由意見】

- 展示室の当日の入退場について検討してほしい。小さな子ども連れの場合は、長時間見ることが難しく、展示室の外で気分の変化が必要な場合もある。また、作品鑑賞の後に関連グッズが欲しくなりミュージアムショップ（16時50分閉店）で買い物をすることや、図録の作品を再度確認したり、鑑賞を中断して講演会（ホール）にいたり、近隣で昼食を取ったり等、各自の興味やペースに合わせて美術館を楽しむことができる。今回の大学の授業での参加の場合でも、ホールでの講義の前に展示室に入って作品鑑賞することができる。来館者が少ない平日や時間帯のみでも良いので検討してほしい。
- 展覧会企画、ワークショップ、イベント、コレクション購入、出前講座等、充実した内容であった。心の憩いと学びの場の提供として、現在閉店となっているレストランの誘致、ミュージアムショップの企画運営の方策が検討課題である。マンパワーにも限りがあり、困難があると思われるが、美術館の空間、憩いの場の提供として是非検討していただけたらと思う。
- 今回、コレクション展と各企画展の総観覧者数を開催期間（日数）で割り、単純に1日あたりの来館者数を出してみると、いかに企画展が充実し、県民の嗜好ニーズに応えているかが分かった。
- 映画鑑賞会「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」は、教育的な面だけでなく、アートを介した人と人を結び付ける効果やヒントがあり、今後も定期的な催しの一つとして組み込んでほしい。
- ドニ展の講演会参加者と話す機会があった。フランスの思想（メリトクラシー）とパリ五輪（←これともっと結び付けたPRもできたかも？）、そしてドニ展について熱く語っていた。少し強引すぎるとは思ったが、探究できる方には、価値が高く、十分満足できる展覧会（講演会）だったようだ。
- 同じ職場の方に尋ねると、県外も含めて美術館に行くことを趣味にしている方は極少ないが、「家族と一緒に美術館に行くことがある」「子どもが見に行きたい」というので、県立近代美術館または万代島美術館に行った方が5人に1人いた。自然科学館や歴史博物館より、美術館に行く方が多かったのに驚いた。職場にもポスターが掲示してあるが、それ以上に子ども（小学生）が学校で目にしたり、友だちに聞いたりして、その展覧会の存在を知ったということが興味深い。大人をターゲットにしていくより、家族みんなで楽しくワクワク鑑賞できる企画展も取り入れながら進めていくとよい。
- 充実した良い展覧会への誘客の問題は貴館に限らないものだが、手を尽くしたところで、人々の興味関心はなかなかコントロールできない。来館者にその良さを実感してもらい、また、子どもたちに良いものに触れる機会を作り、良いものへのアンテナを持った大人になってもらうために、コツコツと努力してゆくしかないと思う。
- 静かに作品を見たい人、おしゃべりしながら楽しみたい人、いずれも作品を見る時の正しい見方だと思う。連れがいれば、作品の感動や見方を互いに共有することによってさらに鑑賞は深まり、また一人静かに見たい人は、作品と自分との対話を楽

しんだり、学芸員が展示により提示する情報を享受し、考えたり、納得したり、疑問に思ったりという時間を大切にしたいのだと思う。いずれも美術館でしかできない大切な楽しい体験であり、解決策は永遠に見つからないだろうが、観覧者が10の内の1の意識を、その場を共有する他の来館者にも向け、どちらも大事な鑑賞方法ということを理解して少し配慮することで、おしゃべりの二人は声のトーンを抑えたり、この話は館外へ出てからにしようと考え、おしゃべりの量も減らしながら楽しむ、あるいは一人の人は、順路を変えて少し離れて鑑賞するなど、お互いに工夫するようになると良いと思う。

- ジブリパークとジブリ展ではジブリパークができる過程など、ものづくりのおもしろさと、いつもながら空間づくりの上手さを感じた。山下清展では、山下清という人物像が浮き彫りになるような構成で、楽しめた。皇室の名宝と新潟展では、展示物が少ない中でレイアウトを工夫し、ゆったりと名宝を見ることができた工夫が感じられたこと、また新潟との関係に視点を絞り、これまで不明であった作者が判明するなどの成果もあげたことなど、見ごたえのある常設展示も含めいずれも高く評価できる。
- 美術鑑賞講座では、描き手向けとか初心者向けとかある程度のカテゴリー分けがあってもいいと思う。
- 改修するにあたって、アトリエなど絵を描く場所や絵画講習なども一考して欲しい。
- 全体的に美術鑑賞の窓口を広げる努力をした方が良いと思う。アンケートの「よい」が多いのは良いことだが、満足してもらえなかったポイントを精査して欲しい。
- 10年後、20年後の美術館のあり方を新潟県の人口問題を考慮しながら、現世代、特に次世代またその次の世代と美術館活動がうまく機能し繋がっていくような方策が今後の検討課題である。
- 2024年4月新潟市芸術村・国際創造センター ゆいぼーとにおいてアーティスト・イン・レジデンス事業に招聘アーティストとして参加された、視覚に障害を持つ白鳥建二さんと話す機会がありました。白鳥さんは、美術館では鑑賞者の会話が非常に興味深く、特に作品をどんな思いで鑑賞するのが楽しみですとおっしゃっていました。人それぞれの視点が違っているのは当然であり、見える風景や作品も全く同じではありません。そんな柔らかな舞台が、美術館で分け隔てなく存在することを願っています。

令和6年度 評価シート（万代島美術館）

【重点取組1】

それぞれの展覧会において当館独自の工夫を行い、芸術文化の発見・発信の場となると同時に、心の憩いと学びの場を提供していく。

評価の視点

- 【1】【展覧会】②多様な展覧会の開催によって、心の憩いと学びの場を提供しているか。
- 【2】【教育普及】②展覧会活動とは別に、心の憩いと学びの場を提供しているか。
- 【3】【調査研究・収集保存・発信】①学芸員の調査研究・発信によって学びの場を提供しているか。

状況報告（3/31 現在）

■取組終了／□取組継続中

- 【1】□ファッション系（コシノジュンコ展）、自然科学系（化石ハンター展）、歴史系（古代エジプト展）、絵本関連（谷川展）の展覧会を開催することによって、従来の美術愛好家とは異なる層にアピールするとともに、多様な学びの機会を提供
 - 「コシノジュンコ展」で作家と見附市の長年の協働を紹介するコーナーを設置
 - 「谷川俊太郎 絵本★百貨展」では、テーマにあわせて所蔵品を展示
- 【2】■「コシノジュンコ展」では作家のギャラリートーク2回、学芸員の解説会2回を実施。「化石ハンター展」では監修者のギャラリートークを2回実施。「古代エジプト美術館展」では講演会、ギャラリートークを各1回、ワークショップを2回実施。「谷川展」では記念コンサート1回、ギャラリートーク2回、絵本の読み聞かせを1回実施
 - 「エジプト展」の事前出前授業を3日間で4コマ実施
 - 「親子ふれあいデー」を4回実施（化石展、谷川展）
 - 展覧会にあわせてクイズ&スタンプラリーを実施（エジプト展）
 - ショップでオリジナルグッズを開発・販売（化石展、エジプト展、谷川展）
 - ホテル日航新潟とのコラボカフェを実施（コシノ展、化石展、谷川展）
 - 県内の図書館に特設コーナーを設置（化石展、エジプト展、谷川展）
- 【3】■「学芸ノートB版」に展覧会関連記事を6回掲載
 - 展覧会紹介記事を新聞に寄稿（コシノ展、化石展、エジプト展）

【自己評価】（年度末）

◎評価すべき点／▲検討課題

- ◎多彩なラインナップの展覧会を開催し、新たな来館者層の獲得へ繋げることができた。
- ◎関連自治体（見附市）と協力し、巡回展の新潟での開催意義を深めることができた。
- ◎巡回展に所蔵品の展示を加えることで、展覧会の構成とテーマを広げることができた。
- ◎講演会やギャラリートーク、ワークショップなど、各展覧会にあわせた多彩なイベントを実施できたことは、教育普及活動として意義深かった。
- ◎ショップやホテル、図書館など外部との協働を継続的に実施できた。

【協議会評価】（年度末／各委員執筆、美術館まとめ） ◎評価すべき点／▲検討課題

【評価すべき点】

- ◎近代美術館の企画展とのバランスに鑑みても、多彩な内容の展覧会を開催できている。幅広い層への紹介と学習の場を提供できている。
- ◎万代島美術館の展覧会は、いずれも美術ファン以外の客層も取込み、美術館を楽しいところとして多くの人たちに認識してもらい、美術館への来客の裾野を広げた。それぞれの展示において、エンターテインメント性と学究的内容が融合した世界観を楽しめる工夫がなされていて、関連事業等の取組も含めて高く評価できる。
- ◎万代島美術館の立地を生かした外部との連携協働等の継続、館の特徴を生かした多彩な展覧会と関連させたイベント、ミュージアムショップの継続等、県民に美術館の楽しみや憩いの場を提供し、幅広い世代に美術館を通して学ぶことの楽しみを提供していることは評価できる。今後も県立近代美術館との適切な連携とすみ分けによる、独自性の発揮を期待する。
- ◎地域産業との連携は、来場者への PR 効果としてとても大きかった。また、巡回展の谷川俊太郎展に所蔵品の展示を加えるアイデアは、展覧会主催者との交渉や調整など大変な作業だったと思うが、新潟ならではの展覧会に仕立てたことは素晴らしい挑戦である。今後も既成の枠をはみ出た展開を期待したい。
- ◎出前講座として新潟商業高校の高校生を 305 人受け入れたことは特筆すべきである。裾野が広がっていくことを予感させる。

【検討課題】

- ▲学校団体広報活動や美術館サービスの点から見ると、全県を対象に「芸術文化の発見・発信の場」、「心の憩いと学びの場」を提供しているとは言い難い。また、年間を通して自主企画展が一つもない等、「県立の美術館」としてその役目を十分に果たしているのか検討が必要である。
- ▲多様性はあるものの、ファッション系、博物館、科学博物館で実施できるような展覧会など、万代島美術館として実施する展覧会としてはある意味偏りがあると思う。これからの美術の振興を担う若手の育成にもつながるような展覧会の計画を検討してほしい。

【重点取組2】

学芸員が各々の専門性を活かした調査・研究を行い、その成果を発信する。

評価の視点

【3】【調査研究・収集保存・発信】①学芸員の調査研究・発信によって学びの場を提供しているか。

③新潟県の芸術文化の発掘・保存・発信の場となっているか。

状況報告（3/31 現在）

■取組終了／□取組継続中

【3】 □田畑あきら子の個展開催に向けて、借用作品などの調査研究を継続

■「学芸ノートB版」にて、所蔵品関連記事を4回掲載

■収集に関連した作品調査を12件実施

■『研究紀要第23号』を発行し、研究論文を1本掲載

■美術に関する新聞記事を2本、図録論文を1本執筆

■美術に関する出前講座を2回、美術鑑賞講座を1回実施

■アートリンク共催の教員対象の研修会を1回実施

【自己評価】（年度末）

◎評価すべき点／▲検討課題

◎「田畑あきら子展」の開催に向けて、調査研究を順調に進められている。

◎収集に関連した調査の結果、3件が収集された。

◎展覧会業務と並行して、所蔵品や作家研究の成果を発信できた。

▲出前講座や美術鑑賞講座といったアウトリーチ活動を増やすことは、学芸員数の少ない当館では困難であり、実施期間や回数を絞り込む必要がある。

【協議会評価】（年度末／各委員執筆、美術館まとめ） ◎評価すべき点／▲検討課題

【評価すべき点】

- ◎「田畑あきら子展」の開催にむけて、調査研究等を行い、展覧会業務と並行して所蔵品や作家研究の成果を発信することにより、地元新潟県の芸術文化の発掘・保存に力を注いでいる点が評価できる。
- ◎学芸員一人一人が新潟ゆかりの作家や、所蔵品の調査研究を中心に、教育普及や収集保存においても様々な調査や研究に取り組み、発信する姿勢は高く評価できる。企画展などで成果を結実させ、さらに、企画展を行うことで研究課題を発見して深め、またそれを発表するという過程は、県民の財産であるコレクションの価値を高めることにつながっている。
- ◎長く調査研究してきた「田畑あきら子展」の開催が今から楽しみである。パッケージ企画展の印象が強い万代島美術館での単独開催・自主事業が、万代島美術館の新しい魅力となると思う。
- ◎学芸員各氏の研究、調査は素晴らしく、また新たな収集は良い結果であると思う。その結果を県民に広く広めたい。

【検討課題】

- ▲出前講座や美術鑑賞講座といったアウトリーチ活動の見直しが困難であることは否めないが、今後でもできる方法を模索していくべきだろう。学芸員その他、ボランティアの専門家やボランティア等の協働や運営企画ができるシステム構築の方策が検討課題である。
- ▲少人数による多様な取組への困難さもあると思うが、新たになった両館の体制を活かし、協働やすみ分けなど、両館の良さ・資源を活かしながら、より効果的な連携ができるとよいだろう。
- ▲それぞれの学芸員の専門の知見が活かされるような調査研究、発信の機会を持てるよう、近代美術館・万代島美術館、外部機関との連携についてさらに検討を行っていく必要があると思う。
- ▲学芸員の不足はいかんともしがたいが、ビデオ講座の実施や、「出前」を「招待」にするなど方策はあると思う。田畑あきら子は知名度がないのでまずそこからの周知が必要だろう。

【その他、自由意見】

- 現在運用している HP 以外の SNS における発信、ユーチューブ、インスタグラム、フェイスブック、X 等で美術館の展覧会や企画を発信することで新たな階層、海外旅行者等、多様な人々からの来場者数増への方策検討が課題であると思われる。
- いろいろな課題があり、その中で努力していると思うが、「できない」という結論付けを極力やめて、「こうしたらどうだろう」とか使えるツールを見直してほしい。
- 万代島美術館に限ったことではないが、平日と休日では明らかに来館者数に差があることは悩ましい。小学校や中学校の新潟市巡見のコースの一つとして、万代島美術館が位置付けられるよう、旅行業者や新潟市に働きかけるとよい。新潟市美と競合するのではなく、連携できるとよい。
- 知名度も高く、ネームバリューのあるコシノジュンコ展の来館者数が伸び悩んだことを分析し、次回の企画展に生かしてほしい。
- 撮影可が多く、「映え」を意識して人気のある作品の前に観覧者が密集しているので、あらかじめスペースをとる等、一考を要する。
- 調査研究の文が少し難解な表現がある。ターゲット（対象者）を広げて発表できるとさらによい。
- 学芸員の調査研究が充実していることの裏返しになるが、各展覧会の入口付近に解説を表示していることから混雑していることがある。長文は避けて短文で表示していくとよい。
- 調査研究も含めて、ホームページが充実している。

令和7年3月31日現在

項 目	事業(施策)の概要
1 コレクション展事業	当館の所蔵作品についてテーマを設けて全4期のコレクション展として紹介。 第1期 4/12（金）-6/23（日）（64日間） 展示室1：日本女性の姿―労働と肖像 【5/25日報記事あり】 展示室2：近代美術館の名品 展示室3：没後50年 難波田史男 青春の思索 〈観覧者数〉2,915人(有料941人) 第2期 6/28（金）-8/18（日）（46日間） 展示室1・2：旅する新潟 展示室3：近代美術館の名品 〈観覧者数〉13,322人(常設展のみ有料271人 無料・免除2,348人) 第3期 8/27（火）-12/15（日）（95日間） 展示室1：親と子のワクワク美術館 はい、ポーズ！ 展示室2：没後40年 竹谷富士雄 展示室3：近代美術館の名品 〈観覧者数〉3,913人(常設展のみ有料825人 無料・免除1,437人) 第4期 12/24（火）-3/30(日)（81日間） 展示室1：シークレット・ガーデン 展示室2：近代美術館の名品 展示室3：亀倉雄策と時代を拓いた作家 〈観覧者数〉6,482人(常設展のみ有料647人 無料・免除1,408人) 合計 26,632人 事業効果 ・「山下清展」(6/29-8/18) から企画展観覧券でコレクション展示も観覧できるようになったことが大きく作用し、観覧者数はR5年度の2倍以上となった。当館のコレクションにより気軽に親しんでいただけるような環境になったと考える。 課題と対応 ・特になし
2 企画展事業	令和6年度は4本の企画展を実施した。大規模展のほか、新潟にゆかりある企画展や当館のコレクションの核となっているジャポニズム関連の企画展を開催した。また、展覧会にちなんだ特色ある教育普及事業、展覧会イベントを実施するなどの工夫を行った。

(1)ジブリパークとジブリ展 巡回展 (TeNYと実行委員会)	宮崎吾朗監督を中心に、ジブリパークがどのように生み出されたのか、その舞台裏を紹介した。 〈会期〉4/17(水)-6/9(日) (48 日間) 〈観覧者数〉126,126 人(有料 82,176 人) 事業効果 ・大規模展の開催により美術館利用者の拡充を図る所期の目標は概ね達成できた。コロナ禍を経た現在でも、ジブリ・アニメ関連企画は集客力が高く、また今後の開催への期待も大きいことが確かめられた。 課題と対応 ・日時指定制を採らなかったことで、土日に混雑が集中し、一部想定しなかった混乱も生じた。親子連れや高齢者、障害者等にとっては、長時間の待機や展示室内の混雑が大きな負担となる。大型展における満足度向上や来館者が快適に過ごせる環境の維持について、今後も模索していく。
(2)生誕100年 山下清展 百年目の大回想 巡回展 (新潟日報社、NSTと 実行委員会)	放浪の画家山下清の生誕 100 年を記念し、生涯と画業を紹介した。 〈会期〉6/29(土)-8/18(日) (45 日間) 〈観覧者数〉33,265 人(有料 26,929 人) 事業効果 ・充実した内容で作家への理解を深めていただく良い機会となった。代表作《長岡の花火》をはじめ山下清への人気は高齢者を中心に根強く予想を大きく上回る来館者数であった。 課題と対応 ・高齢者の来館が多く、展示室内に休憩場所が足りないという声が多く寄せられた。多様な来館者に配慮した鑑賞環境づくりが今後の課題である。
(3)日本が見たドニ ドニの見た日本 自主企画 (県単 巡回)	19 世紀末のパリで日本美術に傾倒し、前衛グループ「ナビ派」の中心メンバーとして活躍したモーリス・ドニの画業をたどりながら、日本との豊かな交流を紹介した。 〈会期〉8/27(火)-10/20(日) (48日間) 〈観覧者数〉3,552人(有料2,234人) 事業効果 ・内容・作品数ともに見応えのある展覧会とすることができた。洋画研究に力を入れている久留米市美術館と組むことで豊富な新知見が得られ、広範囲の所蔵館からの借用ができた。同美術館の協力と各種助成金により、展覧会の内容を深めることができ、図録にも反映し、日頃の研究成果を一般に還元できた。 課題と対応 ・来館者数が目標の半数以下にとどまった。広報費が少ない県単企画展の周知方法が大きな課題である。 ・当館収蔵品の柱である西洋美術を活かした企画展への認知度が不足していることが

(4) 皇室の名宝と新潟 —皇居三の丸尚蔵館 収蔵品でたどる日本 の技と美 自主企画 (県単) 企画展観覧者数	浮き彫りになった。当館の西洋美術の認知度を高めるため、コレクション展や各種 広報媒体を使って周知に努めたい。 皇居三の丸尚蔵館の収蔵品から、近世絵画の名品や近代の油彩画、日本画、工芸作品など 約50件を展示した。また、新潟ゆかりの作品や明治天皇の北陸巡幸写真パネルの展示によ り、皇室と新潟の関わりを紹介した。 〈会期〉2/7（金）-3/16（日）（35日間）　〈観覧者数〉8,256人（有料6,311人） 事業効果 ・国宝2点、重要文化財2点を含む名品の数々を新潟で紹介することができた。 ・図録を作成し、完売できた。 ・展覧会の準備過程で、作者不詳の作品が新潟出身の日本画家の作品であることがわかり、 作家の研究を進展させることができた。 課題と対応 ・展覧会前半は降雪のため、観覧者数が伸び悩んだ。特に県外からの集客が難しかった。 ・インバウンド対策を目的とした文化庁の補助金を活用して事業を実施したが、外国人観覧 者は少なかった。広報の多言語化や発信方法を工夫する必要がある。 <table><tr><td></td><td>企画展名</td><td>観覧者数</td></tr><tr><td>企画展（1）</td><td>ジブリパークとジブリ展</td><td>126,126人</td></tr><tr><td>企画展（2）</td><td>山下清展</td><td>33,265人</td></tr><tr><td>企画展（3）</td><td>日本が見たドニ ドニの見た日本</td><td>3,552人</td></tr><tr><td>企画展（4）</td><td>皇室の名宝と新潟</td><td>8,256人</td></tr><tr><td></td><td>計</td><td>171,199人</td></tr></table>		企画展名	観覧者数	企画展（1）	ジブリパークとジブリ展	126,126人	企画展（2）	山下清展	33,265人	企画展（3）	日本が見たドニ ドニの見た日本	3,552人	企画展（4）	皇室の名宝と新潟	8,256人		計	171,199人
	企画展名	観覧者数																	
企画展（1）	ジブリパークとジブリ展	126,126人																	
企画展（2）	山下清展	33,265人																	
企画展（3）	日本が見たドニ ドニの見た日本	3,552人																	
企画展（4）	皇室の名宝と新潟	8,256人																	
	計	171,199人																	
3 教育普及事業 (1)講演会等 山下清展 日本が見たドニ ドニの見た日本 皇室の名宝と新潟	企画展の開催に併せて、それぞれの企画展について理解を深め、また、親しんでも らえるよう、講師を招いて開催する事業。 ・6/29（土）14:00-15:30　会場：講堂　参加者 104 人 講演会「家族が語る山下清」 講師：山下浩氏（山下清甥） ・8/31（土）14:00-15:30　会場：講堂　参加者 55 人 講演会「憧憬から現実へ——日本人とモーリス・ドニ」 講師：佐々木奈美子氏(久留米市美術館学芸課長) ・2/8（土）14:00-15:30　会場：講堂　参加者 26 人 講演会「皇居三の丸尚蔵館収蔵品にみる皇室と新潟とのゆかり」																		

(2)美術鑑賞講座	講師：細川晋太郎氏（皇居三の丸尚蔵館研究員） ・2/24（月・休）14:00-14:30 会場：参加者 100 人 「作品解説会」 講師：細川晋太郎氏（皇居三の丸尚蔵館研究員） 事業効果 ・2/8（土）の講演会は大雪の影響で参加者が少なめだったが、どの講演会も熱心に聴講される方が多く、出品作品や作家についての理解を深めていただく機会を提供できたと考える。 課題と対応 ・特に冬季の開催は天候の状況によって参加者数に影響が出る。場合によっては中止や延期の判断をしないといけない可能性もあるため、HP や SNS での告知方法をあらかじめ整理しておく必要がある。 県民に美術の学習機会を提供する場として、企画展やコレクション展に関わる美術の諸事について、当館学芸員による講座を開催。 開催講座一覧（14:00-15:30 会場・講堂 聴講無料） ・6/22（土）「『日本女性の姿—労働と肖像』を見る。」 講師：松矢国憲（学芸企画課長） 参加者 12 人 ・9/28（土）「モーリス・ドニの日本イメージ—魂の故郷へ」 講師：平石昌子（専門学芸員） 参加者 48 人 ・10/19（土）「魅力再発見 パリの色彩を描いた洋画家・竹谷富士雄」 講師：長嶋圭哉（主任学芸員） 参加者 38 人 ・1/18（土）「安宅安五郎と新潟」 講師：伊澤朋美（万代島美術館主任学芸員） 参加者 24 人 ・2/22（土）「アーカイブの構築に向けて：亀倉雄策関連資料から見えてきたこと」 講師：今井有（専門学芸員） 参加者 10 人 ・3/1（土）「奇想の画家入門—又兵衛・若冲・蕭白」 講師：飯島沙耶子（主任学芸員） 参加者 124 人 事業効果 ・参加者数の平均は昨年と同程度を維持。企画展に関連した講座に参加者が多い傾向があり、特に「皇室の名宝と新潟」に関連した 3/1 の講座は参加者数が多かった。県民の関心に応えることができた。 課題と対応 ・学芸員の調査・研究の成果を県民に披露する場として、引き続き広く関心を呼べるようなテーマ設定、講座内容を心掛けていく。 (3)ワークショップ 参加・体験を通して企画展や美術館に親しんでもらうことを目的とした事業。
-----------	---

	・2/16(日) 「大人のためのワークショップ ミニ屏風を作ろう」 13:00-16:00 講師：宮下東子（専門学芸員） 参加者数 14 人 ＊(10)その他「親子ふれあい事業」の項に 4 件記載。 事業効果 ・昨年も人気が高かったワークショップを今年度も実施。体験を通じて作品の物理的な構造を知り、理解を深めていただくことができた。 課題と対応 ・人気のワークショップであるが、準備に時間がかかるため、開催回数や人数を増やすことが難しい。次回開催時は手順の整理や担当者増などの対応が必要と思われる。 企画展やコレクション展に関連する映画の鑑賞は、展覧会や作品への理解が深まり、相乗効果が得られるため企画してきた。しかし近年は著作権等の問題から上映可能な映画に限られ、また、使用料も高騰してきており、回数を減らさざるを得ない。本年度はドニ展に関連した内容の映画と障害者の美術鑑賞についての鑑賞会を催した。 企画展「日本が見たドニ ドニの見た日本」関連映画鑑賞会 ・9/22(日・祝)「カラミティ」(2020 年 82 分) 参加者 35 人 ・11/24(土)「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」(2022 年 107 分) 参加者 35 人 事業効果 ・「カラミティ」では、告知段階から「ナビ派の色彩」をアピールしていたことから、アンケートでも色彩の美しさについてのコメントが寄せられ、企画展とのつながりを意識づけできた。 ・「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」では、視覚障害の有無を超え、美術鑑賞とは何かについて新しい視点を持っていただく機会とした。 課題と対応 ・展覧会と映画上映とによる作品への理解を深める効果を認識しつつも、著作権料の問題が残り、映画上映に対しての費用対効果を今後考えていかざるを得ない。
(4) 映画鑑賞会	企画展やコレクション展に関連する映画の鑑賞は、展覧会や作品への理解が深まり、相乗効果が得られるため企画してきた。しかし近年は著作権等の問題から上映可能な映画に限られ、また、使用料も高騰してきており、回数を減らさざるを得ない。本年度はドニ展に関連した内容の映画と障害者の美術鑑賞についての鑑賞会を催した。 企画展「日本が見たドニ ドニの見た日本」関連映画鑑賞会 ・9/22(日・祝)「カラミティ」(2020 年 82 分) 参加者 35 人 ・11/24(土)「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」(2022 年 107 分) 参加者 35 人 事業効果 ・「カラミティ」では、告知段階から「ナビ派の色彩」をアピールしていたことから、アンケートでも色彩の美しさについてのコメントが寄せられ、企画展とのつながりを意識づけできた。 ・「目の見えない白鳥さん、アートを見にいく」では、視覚障害の有無を超え、美術鑑賞とは何かについて新しい視点を持っていただく機会とした。 課題と対応 ・展覧会と映画上映とによる作品への理解を深める効果を認識しつつも、著作権料の問題が残り、映画上映に対しての費用対効果を今後考えていかざるを得ない。
(5) 出前講座	地域団体・機関や学校等と連携し、当館学芸員などを講師として派遣、美術館や作品鑑賞に関わる理解を深めてもらう事業。従来、外部からの要請に対し極力対応してきたが、負担が大きく、他事業とのバランスを考慮し、本年度も月 3 回までの実施とし、動向の調査を含めて試行した。 ・5/21(火)新潟デザイン専門学校モンセラート美術大学学生及び教員 参加者 23 人 「日本画の基礎知識」 講師：池田珠緒（専門学芸員）

	・7/10(水)妙高市立新井中央小学校1年生(2コマ) 参加者40人 「みる“って、楽しい!” 講師:宮下東子(専門学芸員) ・7/18(木)小千谷市立小千谷南小学校 ①1年生 ②4年生 ③2年生 参加者39人 ①「みる“って、楽しい!” 講師:宮下東子(専門学芸員) ②「色や形を楽しもう」 講師:宮下東子(専門学芸員) ③「みる“って、楽しい! Ver.2」 講師:宮下東子(専門学芸員) ・7/19(金)魚沼市立魚沼北中学校3年生 参加者14人 「デザインって何?」 講師:藤田裕彦(万代島美術館館長) ・9/10(火)燕市立小池小学校 ①2年生 ②3年生 ③6年生(2コマ) 参加者119人 ①②「みる“って、楽しい!” 講師:今井有(専門学芸員) ③「色や形を楽しもう」 講師:宮下東子(専門学芸員) ・9/11(水)南魚沼市立大崎小学校 ①4年生 ②6年生 参加者43人 ①「色や形を楽しもう」 講師:池田珠緒(専門学芸員) ②「学芸員のお仕事」 講師:池田珠緒(専門学芸員) ・9/24(火)上越市立富岡小学校 ①1・2年生 ②3・4年生 ③5・6年生(2コマ) ④6年生 参加者109人 ①「みる“って、楽しい!” 講師:飯島沙耶子(主任学芸員) ②「色や形を楽しもう」 講師:宮下東子(専門学芸員) ③「対話による鑑賞」 講師:宮下東子(専門学芸員) ④「学芸員のお仕事」 講師:飯島沙耶子(主任学芸員) ・10/2(水)上越市立谷浜小学校 ①1・2年生 ②3・4年生 ③5・6年生 参加者31人 ①「みる“って、楽しい!” 講師:上雅次(副参事) ②「色や形を楽しもう」 講師:上雅次(副参事) ③「対話による鑑賞」 講師:上雅次(副参事) ・10/3(木)阿賀野市立堀越小学校 ①1・3年生(2コマ) ②5年生 参加者73人 ①「みる“って、楽しい!” 講師:今井有(専門学芸員) ②「色や形を楽しもう」 講師:今井有(専門学芸員) ・10/17(木)長岡市立江陽中学校1年生 参加者15人 「学芸員のお仕事」 講師:飯島沙耶子(主任学芸員) ・10/24(木)14:05-14:55 長岡市立太田中学校3年生 「デザインって、何?」 講師:藤田裕彦(万代島美術館館長) 参加者8人 ・11/5(火)長岡市立上組小学校6年生(2コマ) 参加者67人 「学芸員のお仕事」 講師:長嶋圭哉(主任学芸員) ・11/7(木)南魚沼市立おおまき小学校全学年(6コマ) 参加者129人 ①「色や形を楽しもう」4~6年生(3コマ) 講師:今井有(専門学芸員) ②「みる“って、楽しい!”1~3年生(3コマ) 講師:池田珠緒(専門学芸員) ・11/20(水)上越市立上下浜小学校①1・2年生②3年生 参加者30人 「みる“って、楽しい!” 講師:長嶋圭哉(主任学芸員) ・11/29(金)五泉市立巢本小学校1・2年生 参加者22人 「みる“って、楽しい!”1・2年生(合同) 講師:池田珠緒(専門学芸員) ・12/3(火)妙高市立新井北小学校①4年生②5年生③6年生 参加者96人
--	--

(6)作品解説会	①②「色や形を楽しもう」 講師：宮下東子（専門学芸員） ③「学芸員のお仕事」 講師：宮下東子（専門学芸員） ・12/6(金)妙高市立新井北小学校1・2年生（4コマ） 参加者 88人 「みる“って、楽しい！」 講師：上雅次（副参事） 計（44コマ）946人																							
	事業効果 ・学校での出前講座について、校数は16校（昨年度から4校増）、コマ数については43コマ（昨年度から17コマ増）で、昨年以上の依頼があった。本事業について徐々に周知されてきていると考える。																							
	課題と対応 ・1日に複数の授業を依頼されることが増えており、職員2人で対応した学校もあったが、他の業務とのバランスを考えると職員を一度に複数人派遣するのは難しい。学校からの希望を調整しながら実施する必要がある。																							
	企画展、コレクション展にあわせて、企画展示室およびコレクション展示室内で作品解説を行い、鑑賞補助や作品鑑賞に関わる理解を深める。																							
日本が見たドニ ドニの見た日本	・学芸員によるギャラリートーク ①9/15(日)23人 ②10/13(日)15人 ※いずれも14:00- 担当：平石昌子（専門学芸員） 参加者 計38人																							
コレクション展	・コレクション展 毎週土曜日 14:00- 担当：学芸企画課職員 ①4/13 9人 ②6/15 13人 ③7/27 10人 ④8/17 23人 ⑤9/14 7人 ⑥10/5 16人 ⑦11/2 7人 ⑧12/14 3人 ⑨1/11 5人 ⑩2/15 15人 ⑪3/15 15人 ※9/14、12/14は対話型で実施。 参加者 計123人																							
(7)団体来館	事業効果 ・人数に多少のばらつきはあるものの、参加者がいなかった回はなく、コレクションに対しての興味・関心を深められたと思われる。対話型鑑賞も2回実施し、今後につながる新しい方向性も打ち出せた。																							
	課題と対応 ・特になし																							
	学校団体、一般団体を美術館として受入れ、希望団体には解説や対話型鑑賞も実施している。																							
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">一般団体</td><td>自由鑑賞</td><td>51団体</td><td>941人</td></tr> <tr> <td>解説等あり</td><td>4団体</td><td>106人</td></tr> <tr> <td rowspan="2">学校団体</td><td>自由鑑賞</td><td>29団体</td><td>1,244人（引率151人含む）</td></tr> <tr> <td>解説等あり</td><td>15団体</td><td>449人（引率40人含む）</td></tr> <tr> <td>幼・保</td><td>—</td><td>18団体</td><td>672人（引率93人含む）</td></tr> <tr> <td>計</td><td></td><td>117団体</td><td>3,412人</td></tr> </table>			一般団体	自由鑑賞	51団体	941人	解説等あり	4団体	106人	学校団体	自由鑑賞	29団体	1,244人（引率151人含む）	解説等あり	15団体	449人（引率40人含む）	幼・保	—	18団体	672人（引率93人含む）	計		117団体
一般団体	自由鑑賞	51団体	941人																					
	解説等あり	4団体	106人																					
学校団体	自由鑑賞	29団体	1,244人（引率151人含む）																					
	解説等あり	15団体	449人（引率40人含む）																					
幼・保	—	18団体	672人（引率93人含む）																					
計		117団体	3,412人																					

(8)博物館実習	事業効果 ・「ジブリパークとジブリ展」開催期間中の団体利用が多く、団体数、利用者数ともに昨年度実績を大きく上回った。 課題と対応 ・「ジブリパークとジブリ展」会期中の団体来館については、混雑を避けていただくために美術館側で団体に対して利用時間や入館方法などの調整をお願いしたが、混雑対策で来館者誘導や館内ルールが逐次変更となっていたため、担当の負担が大きかった。今回の経験を今後に活かしたい。 学芸員資格取得を目指す学生等のための博物館実習を実施し、5名の学生を受け入れた。美術館学芸員の業務に関する講義の他、各分野の取扱いについて実習を行った。当館所蔵作品の展示、コレクション展の展示作品を題材として鑑賞会を実体験してみるなど、事前準備も含め学芸業務の経験を積むことに重点をおいた。 実施期間：10/3(木)-10/11(金) ※土日を除く7日間 参加者数：5人 受入大学：新潟大学、長岡造形大学、富山大学
(9) ボランティア活動 (協働)	事業効果 ・実習生はどの課題にも真剣に取り組んでおり、活発な質問からも積極的に学ぶ姿勢が感じられた。 ・課題としたコレクション展示室での解説会では、解説会と対話型鑑賞を組み合わせた独自の内容を全員が協力して作り上げた。 課題と対応 ・学芸企画課職員が減じられている中、通常業務を行いながらの実習は職員の負担も大きい。文化庁のガイドラインを遵守しつつ、受入人数や講義内容を見直す必要がある。 友の会との協働の中で、印刷物の発送作業を行った。 期間：7/23(火) コレクション展およびドニ展印刷物関連 10人 12/20(金) 三の丸展印刷物関連 8人 2/20(木) 安野展印刷物関連 7人 事業効果 ・友の会会員にポスター、チラシ等の発送作業に参加していただき、作業を速やかに進められた。 課題と対応 ・発送作業だけでなく、次年度も活動を広げ、協力関係を強化していきたい。

(10) その他 親子ふれあい事業	子育て世代支援の為に付けられた県の事業費を主に活用し、以下の事業を行った。 ・親子ふれあいデー 中学生以下の子供同伴の保護者2名までコレクション展の観覧料を無料とした。 (参加者数は保護者のみを記載) ①7/14(日)10人 ②8/18(日)11人 ③9/14(土)5人 ④10/13(日)15人 ⑤11/10(日)14人 ⑥12/14(日)8人 ⑦1/12(日)6人 ⑧2/9(日)2人 ⑨3/9(日)10人 ※同日、声の大きさを気にせずに鑑賞を楽しめる「おしゃべりタイム」も実施。 (① ② ③ ④ ⑧ ⑨は企画展会場でも「おしゃべりタイム」を実施) ・みちくさプレイス (美術館賑わい空間創出事業として) 椅子・テーブル・書棚・絵本・独自に開発したパズルを設置して、親子でくつろげる空間をロビーに作った (11/8より開設) ・親子でアート！ (親子ふれあい促進事業関連ワークショップ) ○7/14 (日) 山下清展ワークショップ「てん・てん・てん…でえがいてみよう！」 講師：宮下東子 (専門学芸員) 会場：2F ギャラリー ①10:00 参加者19人 (大人9+子10) ②14:00 参加者19人 (大人10+子9) ○11/10(日)14:00「いつアート？ It's Art！」 講師：小松佳代子氏 (長岡造形大学教授) 会場：2F ギャラリー 参加者13人 ○6/28 (金) -8/18 (日) コレクション展関連ワークシート 「クイズに挑戦！びじゅつかんをめぐる「旅」」327人 (自由参加) ○3/9(日) 「ちいさな“えまきもの”をつくろう」 14:00-16:00 講師：宮下東子 (専門学芸員) 会場：2F ギャラリー 参加者数15人 (大人8+子ども7) 事業効果 ・昨年度に引き続き、親子ふれあいデーやワークショップ、キッズスペースの設置など、親子連れが美術館に親しみやすい事業や環境づくりを実施することができた。 課題と対応 ・美術館利用者にさらに周知できるよう、情報の出し方を工夫していく。
---------------------------------	---

教育普及 参加者数		事業名	参加人数
	(1)	講演会等 (4 件)	285
	(2)	美術鑑賞講座 (6 件)	256
	(3)	ワークショップ (1 件) * (10)その他に 4 件記載	14
	(4)	映画鑑賞会 (2 件)	70
	(5)	出前講座 (44 件)	946
	(6)	作品解説会 (13 件)	161
	(7)	団体来館 (117 件)	3,412
	(8)	博物館実習 (1 件)	5
	(9)	ボランティア (3 件)	25
	(10)	その他 (13 件)	474
	計		5,648
4 共催事業			
(1)第78回新潟県美術 展覧会長岡展	本県の美術の普及と向上を目的に 1945 年から始まった県内最大の公募展。 会期：6/19(水)-6/23(日) 観覧者数：3,583 人 主催：新潟日報社、新潟日報美術振興財団、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越市教育委員会		
(2)第27回友の会作品展	友の会会員が制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度より開催。 会期：10/16(水)-10/20(日) 観覧者数：176 人		
(3)第26回長岡市中学校 美術部作品展	長岡市内の中学校美術部の活動成果を発表する場として開催。 会期：11/23(土)・11/24(日) 観覧者数：444 人 主催：長岡造形大学		
(4)第55回新潟県 ジュニア美術展覧会	感性豊かな子どもの育成と美術振興をねらいとして、継続している全県規模の展覧会。 会期：12/11(水)-12/15(日) 観覧者数：1,278 人 主催：新潟日報社、新潟県教育委員会、新潟県立近代美術館、新潟県美術教育連盟、新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市教育委員会、柏崎市教育委員会		
5 調査・研究事業			
(1)調査	【展覧会関連】 ・5/22 (水) 川端龍子展視察 (富山県水墨美術館) 長嶋圭哉 (主任学芸員) ・7/4 (木) - 7 (日) 久能山東照宮資料調査 (久能山東照宮) 長嶋圭哉 (主任学芸員)、宮下東子 (専門学芸員、6 日から)		

	・8/8（木） - 9（金）「安野光雅展」視察（北九州市立美術館） 上雅次（副参事） ・8/23（金） - 24（土）「鴻池朋子展」視察（青森県立美術館） 今井有（専門学芸員） ・8/29（木）「安彦良和展」視察（兵庫県立美術館） 松矢国憲（学芸企画課長） ・9/20（金）「オバケ？展」視察（PLAY! MUSEUM） 池田珠緒（専門学芸員） ・10/2（水）「皇室の名宝と新潟展」作品調査（皇居三の丸尚蔵館） 飯島沙耶子（主任学芸員）、松矢国憲（学芸企画課長） ・10/12（土）「オバケ？展」関連視察（新潟市こども創造センター） 今井有（専門学芸員） ・10/16（水）「久能山東照宮展」資料取扱調査（新潟県立歴史博物館） 宮下東子（専門学芸員） ・10/22（火）「松岡達英展」視察（長岡市立栃尾美術館） 宮下東子（専門学芸員） ・11/27（水） - 29（金）久能山東照宮資料調査 宮下東子（専門学芸員）、長嶋圭哉（主任学芸員） ・2/7（金）甲冑取り扱い研修（県立歴史博物館） 宮下東子（専門学芸員）、長嶋圭哉（専門学芸員） ・2/25（火） - 2/26（水）久能山東照宮資料調査 宮下東子（専門学芸員）、長嶋圭哉（専門学芸員） 【作品・作家調査】 ・4/23（火）浅野赤城作品調査（新潟市個人宅） 長嶋圭哉（主任学芸員） ・4/23（火）佐藤哲三作品調査（砂丘館） 飯島沙耶子（主任学芸員） ・5/7（火）白倉二峰作品調査（天門美術館） 長嶋圭哉（主任学芸員） ・5/9（木）林昭三作品調査（新潟市内企業） 池田珠緒（専門学芸員）、伊澤朋美（万代島美術館主任学芸員） ・6/6（木）長岡造形大学美術・工芸特別講義（講師：小林正人氏） 今井有（専門学芸員） ・6/17（月）西垣伴左作品調査（新潟市個人宅） 飯島沙耶子（主任学芸員）、澤田佳三（万代島美術館専門学芸員） ・6/24（月）資料調査（相模原市個人宅） 松矢国憲（学芸企画課長） ・6/27（木）作品調査（長岡市個人宅） 松矢国憲（学芸企画課長）、飯島沙耶子（主任学芸員） ・7/10（水）山内倉蔵作品調査（五泉市個人宅） 池田珠緒（専門学芸員）伊澤朋美（万代島美術館主任学芸員） ・9/5（木）浅野赤城作品調査（長岡市寺院） 長嶋圭哉（主任学芸員） 飯島沙耶子（主任学芸員） ・9/10（火）浦上義昭調査（作家宅） 長嶋圭哉（主任学芸員） ・9/12（木）橋本龍美作品調査（東京個人宅） 宮下東子（専門学芸員） ・9/26（木）浦上義昭作品調査（雪梁舎美術館他） 長嶋圭哉（主任学芸員） ・10/10（木）松岡達英作品調査（作家宅） 宮下東子（専門学芸員） ・10/31（木）山内倉蔵作品調査（五泉市寺院） 池田珠緒（専門学芸員）、伊澤朋美（万代島美術館主任学芸員）
--	--

	・10/31（木）松岡達英作品調査（作家宅） 宮下東子（専門学芸員） ・11/15（金）松岡達英作品調査（作家宅） 宮下東子（専門学芸員） ・11/20（水）亀倉雄策文庫調査（新潟大学附属図書館） 今井有（専門学芸員） ・12/6（金）松岡達英作品調査（作家宅） 宮下東子（専門学芸員） ・12/9（木）竹谷富士雄作品調査（長岡市個人宅） 長嶋圭哉（主任学芸員） ・1/15（水）竹内蘆風作品調査（長岡市個人宅） 長嶋圭哉（主任学芸員） ・1/17（金）松岡達英作品調査（作家宅） 宮下東子（専門学芸員）、池田珠緒（専門学芸員） ・1/27（月）亀倉雄策関連調査（東京都） 今井有（専門学芸員） ・3/11（火）浅野赤城作品調査（長岡市中之島公民館中野分館） 長嶋圭哉（主任学芸員）、飯島沙耶子（主任学芸員） ・3/11（火）良寛作品調査（新潟市個人宅） 松矢国憲（学芸企画課長） ・3/19（水）中谷翫古・金子孝信関連調査（加茂市個人宅、県立図書館、新潟市個人宅） 長嶋圭哉（主任学芸員） ・3/25（火）新保兵次郎作品調査（千葉県） 今井有（専門学芸員）
(2)図録執筆	『日本が見たドニ ドニの見た日本』（久留米市美術館、8月27日発行） ・図録編集、エッセイ「モーリス・ドニの日本への眼差し」、コラム「ナビ派誕生の地—パリの世紀末」、「ナビ派の代弁者——ピエール・ルイとは何者か」、「ランソンの食堂壁画と「アール・ヌーヴォーの館」、「《ベンガル虎 バッカス祭》——その数奇な運命」及び章解説・作品解説 平石昌子（専門学芸員） ・作家解説 桐原浩（館長）9人、平石昌子（専門学芸員）4人、 長嶋圭哉（主任学芸員）20人、濱田真由美（万代島美術館専門学芸員）5人、 松本奈穂子（万代島美術館主任学芸員）6人 『皇室の名宝と新潟 一皇居三の丸尚蔵館収蔵品でたどる日本の技と美』（新潟県立近代美術館、2月7日発行） ・図録編集、コラム「浅野赤城の真景図について」、作品解説、章解説 飯島沙耶子（主任学芸員） ・作品解説 松矢国憲（学芸企画課長）、藤田裕彦（万代島美術館館長）
(3)研究紀要	『新潟県立近代美術館研究紀要』第23号（新潟県立近代美術館、3月7日発行） 「江口草玄の未公開資料（二） 昭和六十一年（一九八六）—平成三年（一九九一）」 松矢国憲（学芸企画課長）
(4)寄稿	『歿後50年記念 近代南画界の異才 白倉二峰展』（天門美術館、4月8日発行） 「白倉二峰の作品評・人物評から」長嶋圭哉（主任学芸員） 『博物館研究』第60巻第3号（公益財団法人日本博物館協会、2月25日発行） 「支部情報 北信越支部：周年事業の難しさについて」桐原浩（館長）

	【新聞】 ・7/12（金）、17（水）、20（土）、23（火）、25（木）、30（火）、8/1（木）新潟日報「山下清展」（連載）今井有（専門学芸員） ・6/24（月）新潟日報「新潟を愛した放浪画家」（山下清展特集）今井有（専門学芸員） ・8/15（木）新美術新聞「日本が見たドニ ドニが見た日本」平石昌子（専門学芸員） ・9/25（月）新潟日報「展覧会へようこそ「日本が見たドニ ドニの見た日本」」平石昌子（専門学芸員） ・10/17（木）新潟日報「展覧会へようこそ「広がる日本画《水墨画・日本画・写生画》浦上義昭 日本画展」長嶋圭哉（主任学芸員） ・2/11（火）、2/12（水）、2/19（水）読売新聞「紡ぐプロジェクト」（連載）「皇室の名宝と新潟」飯島沙耶子（主任学芸員） 【学芸員コラム（HP 内で掲載）】 ・8/1（木）「32 令和6 年度能登半島地震被災文化財等救援活動に参加して」松矢国憲（学芸企画課長） ・9/24（火）「33 竹谷富士雄と矢部友衛」長嶋圭哉（主任学芸員） ・10/18（金）「34 追憶の眼差し―《ベンガル虎 バッカス祭》」平石昌子（専門学芸員） ・1/14（火）「35 雑文～大河ドラマと企画展「皇室の名宝と新潟」をめぐる」飯島沙耶子（主任学芸員） ・2/3（月）「36 二つの路谷虹児展」池田珠緒（専門学芸員） ・3/12（水）「37 日本工房の面影―銀座と亀倉雄策」今井有（専門学芸員）
(5)講演・講義等	・11/20（水）全国美術館会議小規模館研究部会第57 回会合・研修会（小林古径記念美術館）松矢国憲（学芸企画課長） 【長岡造形大学「現代芸術論」補講】 ・7/12（金）（当館） 「長岡と美術」松矢国憲（学芸企画課長）、「山下清展」今井有（専門学芸員） 【教員研修会講師】 ・11/7（木）長岡市三島郡美術教育研究会美術鑑賞研修（当館）宮下東子（専門学芸員）
(6)研修	・6/13（木）国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会（WEB）松矢国憲（学芸企画課長）
(7)会議	・4/26（金）新潟県博物館協議会研究発表会及び総会（ホテル日航新潟）桐原浩（館長） ・5/31（金）亀倉雄策賞展会議（日本グラフィックデザイン協会）今井有（専門学芸員） ・6/4（火）第66 回北信越博物館協議会/日本博物館協会北信越支部総会・研究協議（あてま高原リゾート ベルナティオ）桐原浩（館長）

	・6/14（金）公開承認施設担当者会議（WEB） 桐原浩（館長）、松矢国憲（学芸企画課長） ・11/21（木）美術館連絡協議会総会（よみうり大手町ホール）桐原浩（館長） ・12/5（木）R 6年度「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」成果報告会（WEB） 飯島沙耶子（主任学芸員） 【NIIGATA アートリンク】 〔連絡会議〕 ・4/22（月）第1回（万代島美術館）宮下東子（専門学芸員）、今井有（専門学芸員）、池田珠緒（専門学芸員）、上雅次（副参事） ・10/30（水）第2回（新潟市新津美術館）今井有（専門学芸員）、池田珠緒（専門学芸員） ・11/18（月）三館連携事業打ち合わせ（WEB）今井有（専門学芸員）、上雅次（副参事） ・2/20（木）第3回（万代島美術館）今井有（専門学芸員）、池田珠緒（専門学芸員） 〔教育普及部会〕 ・7/9（火）第1回（近代美術館）宮下東子（専門学芸員）、今井有（専門学芸員）、池田珠緒（専門学芸員）、上雅次（副参事） ・9/10（火）第2回（WEB）宮下東子（専門学芸員）、今井有（専門学芸員）、池田珠緒（専門学芸員）
(8)学校団体広報活動	・4/20（土）新潟市小学校教頭会広報活動（秋葉区文化会館） 上雅次（副参事）、濱田真由美（万代島美術館専門学芸員） ・4/23（火）上越市小学校教頭会広報活動（上越市教育プラザ）上雅次（副参事） ・5/8（水）長岡市教頭会広報活動（パストラル長岡）上雅次（副参事） ・5/10（金）新潟市中学校教頭会広報活動（サンルート新潟） 上雅次（副参事）、藤田裕彦（万代島美術館館長） ・6/5（水）柏崎市教頭会広報活動（ワークプラザ柏崎）上雅次（副参事）
(9)審査	・2/17（月）上越市美術資料収集委員会（上越市立小林古径記念美術館） 松矢国憲（学芸企画課長）
(10)その他	令和6年能登半島地震被災建造物復旧支援および被災文化財等救援活動事業 ・5/7-5/10 石川県（金沢市、輪島市、鹿島郡中能登町） 松矢国憲（学芸企画課長） ・7/16-7/19 石川県（金沢市、輪島市） 松矢国憲（学芸企画課長） NIIGATA アートリンク共催事業 ・7/29（月）「令和6年度 鑑賞と美術館一活用のための研修会」（近代美術館） 宮下東子（専門学芸員）、今井有（専門学芸員）、池田珠緒（専門学芸員）、上雅次（副参事）、飯島沙耶子（主任学芸員）

令和6年度 活動報告（万代島美術館）

令和7年3月31日現在

項 目	事業(施策)の概要
1 所蔵品展事業	今年度は実施しなかった。
2 企画展事業	実行委員会方式により、4本の企画展を開催した。
(1)コシノジュンコ 原点から現点 巡回展 (TeNYと実行委員会)	世界的ファッショデザイナー・コシノジュンコの創造の原点である高校時代に描いた絵画から現在にいたる多彩で挑戦に満ちた活動の全貌を、衣装やデザイン画など約200点をとおして紹介する過去最大規模の展覧会。 〈会期〉4/1（月）-5/26（日）（51日間） 〈観覧者数〉（4/1-5/26）9,451人（有料 7,367人） ※全会期 2/22（木）-5/26（日）（86日間）〈総観覧者数〉14,453人（有料 11,102人） 事業効果 ・ 県内の関係自治体と団体の協力による独自コーナーを設置し、全面的に改修されたLED照明機能を活かした空間演出によって、展示に関する高い評価を来館者から得ることができた。 ・ 独自制作の無料音声ガイドや、主にファッションデザインを学ぶ県内の学生を対象としたイベントなど、教育普及面においても独自色を出すことができた。 課題と対応 ・ 来館者の増加に有効な方策を見い出せなかったが、新たに導入したオンラインプレスリリースをはじめ有効な方策を共催社とともに継続して検討・試行する。
(2)化石ハンター展 巡回展 (BSNと実行委員会)	およそ100年前にゴビ砂漠で数々の貴重な化石を発見した、ロイ・チャップマン・アンドリュースの偉業を記念して、古生物学者たちがゴビ砂漠やヒマラヤで発掘した恐竜や大型哺乳類の研究成果を展示紹介した。 〈会期〉6/25(火)-9/23(月・祝)（84日間） 〈観覧者数〉21,771人（有料 11,116人） 事業効果 ・ 質の高い展示内容を通して、こどもとその家族を中心に研究の楽しさや奥深さ、古生物学の最新学説にふれる機会を提供することができた。 課題と対応 ・ 恐竜・化石ファンにとっては満足度の高い展覧会となった一方、それ以上の層には訴求力に欠けた。幅広い来場者に訴えかける広報展開を検討する必要がある。

(3)古代エジプト美術館展 巡回展 (BSNと実行委員会)	世界的に貴重な遺物であるミイラやミイラマスク、人型木棺、神殿の石柱、ツタンカーメンの指輪をはじめ、当時の生活様式がわかるジュエリーやレリーフなど約200点を展示するとともに、過去100年間学術的な調査がほとんどなされてこなかったメイドゥム（マイドゥーム）・ピラミッドの最新調査（2022年）の様子を紹介した。 〈会期〉10/11(金)-12/15(日)（62日間） 〈観覧者数〉35,433人（有料28,303人） 事業効果 ・海外からの借用が厳しさを増す中、質の高い国内コレクションを通じて、古代エジプト文明の遺物を実見できる貴重な機会を提供できた。 ・本展のテーマに関心が高いことがうかがわれ、普及事業の実施も含め、幅広い来館者のニーズに応えることができた。 課題と対応 ・冒頭の展示ケースに小品と解説が多かったことで、特に入口付近に列が発生し易く、土日はそれを整理する人員が必要となった。入口付近はできるだけ空間に余裕を持たせるとともに、導線的に通路を塞がないようなレイアウトを心掛ける。																		
(4)谷川俊太郎 絵本★百貨展 巡回展 (UXと実行委員会)	詩人の谷川俊太郎は1960年代以降、さまざまな絵描きや写真家と200冊にも及ぶ絵本を作ってきた。その中から約20冊を取り上げ、多彩なクリエイターとともに、絵本の原画、絵や言葉が動き出す映像、朗読や音、巨大な絵巻や書き下ろしのインスタレーション作品などを展示した。 〈会期〉1/18（土）-3/31（月）（68日間） 〈観覧者数〉（1/18-3/31）19,508人（有料12,803人）																		
企画展観覧者数	<table><tr><td></td><td>企画展名</td><td>観覧者数</td></tr><tr><td>企画展(1)</td><td>コシノジュンコ 原点から現点(4/1-5/26) *全会期(2/22-5/26)では14,453人</td><td>9,451人</td></tr><tr><td>企画展(2)</td><td>化石ハンター展</td><td>21,771人</td></tr><tr><td>企画展(3)</td><td>古代エジプト美術館展</td><td>35,433人</td></tr><tr><td>企画展(4)</td><td>谷川俊太郎 絵本★百貨展（1/18-3/31）</td><td>19,508人</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>86,163人</td></tr></table>		企画展名	観覧者数	企画展(1)	コシノジュンコ 原点から現点(4/1-5/26) *全会期(2/22-5/26)では14,453人	9,451人	企画展(2)	化石ハンター展	21,771人	企画展(3)	古代エジプト美術館展	35,433人	企画展(4)	谷川俊太郎 絵本★百貨展（1/18-3/31）	19,508人		合計	86,163人
	企画展名	観覧者数																	
企画展(1)	コシノジュンコ 原点から現点(4/1-5/26) *全会期(2/22-5/26)では14,453人	9,451人																	
企画展(2)	化石ハンター展	21,771人																	
企画展(3)	古代エジプト美術館展	35,433人																	
企画展(4)	谷川俊太郎 絵本★百貨展（1/18-3/31）	19,508人																	
	合計	86,163人																	

3 教育普及事業 (1)講演会等 コシノジュンコ 原点から現点 化石ハンター展 古代エジプト美術館展 谷川俊太郎 絵本★百貨展	展覧会の趣旨、作品や作家への理解を深めるため、外部から講師を招いて開催するもの。 ・5/12 (日) ①13:30- ②15:30- 参加者 計 126人 (各回定員あり) 「コシノジュンコ ギャラリートーク」 講師：コシノジュンコ氏 ・7/28 (日) ①11:00- ②14:00- 会場：展示室 参加者 ①40人 ②40人 スペシャルトーク「解説！化石ハンターのヒミツ」 講師：木村由莉氏 (本展総合監修者・国立科学博物館研究主幹) 司会：三石佳那 (BSNアナウンサー) ・10/11 (金) 10:30- 参加者 60人 「ギャラリートーク」 講師：菊川匡氏 (古代エジプト美術館展 渋谷 ファウンダー) ・11/2 (土) 14:30-16:00 会場：朱鷺メッセ中会議室201 参加者 128人 記念講演会「ピラミッドと古代エジプト神話」&サイン会 講師：大城道則氏 (駒澤大学教授) *サイン会は16:30- 美術館ロビーにて開催 (参加者 29人) ・2/2 (日) ①11:00- ②13:00- 会場：展示室 参加者 ①35人 ②20人 「ギャラリートーク」 講師：林綾野氏 (本展キュレーター) 共催：新潟県立美術館友の会 事業効果 ・展覧会の監修者や学術協力者によるトークや講演会は人気が高く、展示物への興味や知識を高める効果もある。熱心な参加者も多く、イベント後に行ったサイン会も好評であった。 課題と対応 ・講演会で事前申し込み制にした場合、2～3割程度が当日キャンセルとなる。そのため、キャンセルを見越した定員を設定する必要がある。
(2)ワークショップ 古代エジプト美術館展	簡単な手作業や工作等に親しみ、気軽に美術館に足を運んでもらうきっかけとする。 ・10/12 (土) 14:00-／15:30- 会場：美術館ロビー 参加者 計 20人 「あなただけのアミュレット (お守り) を作ろう！」 講師：菊川匡氏 (古代エジプト美術館展 渋谷 ファウンダー) 長富信人氏 (古代エジプト美術館展 渋谷 CMO)

	事業効果 ・制作を行う前に展示室で関連する作品を実見し、説明を聞いたことで、展示物への興味や知識を深めることに繋がり有意義であった。 課題と対応 ・アミュレットというものの認知度が低かったためか、各回とも定員に達しなかった。タイトルからでもわかりやすい内容になるよう工夫する。
(3)出前講座	学校や各種団体の依頼に応じて、展覧会や県出身作家等をテーマに開催。 ・11/12（火）11:00-11:55、11/13（水）11:00-11:55、12:40-13:35、11/14（木）14:50-15:45 新潟県立新潟商業高等学校2、3年生 計 305人 「古代エジプト美術館展」鑑賞事前授業 講師：濱田真由美（専門学芸員） 事業効果 ・展覧会の事前授業は、会場での解説による混雑を回避できるだけでなく、スライドを使って内容を効果的に伝えることができる。また、事前授業で興味を持った学生は来館までに自主学習することもでき、学習意欲を高める効果もある。 課題と対応 ・出前授業はテーマによって講師が指定されるため、同じテーマで遠方への出前回数が増えることは職員への負担が大きくなる。回数やテーマを限定するなどの対応が必要である。
(4)作品解説会等 コシノジュンコ 原点から現点	展覧会の趣旨、作品や作家への理解を深めるため、学芸員が展示室やロビーで解説を行う。 ・学芸員によるギャラリートーク ※いずれも14:00- ① 4/6（土）20人 ②4/14（日）24人 担当：澤田佳三（専門学芸員） 参加者 計 44人 事業効果 ・会場内での作品解説会は毎回好評であり、担当学芸員のポイントを押さえた解説により展覧会の内容を効果的に伝えることができている。 課題と対応 ・特になし

(5)団体来館	団体来館のうち、希望に応じて作品解説会や施設紹介等を行った。 <table><tr><td rowspan="2">一般団体</td><td>自由鑑賞</td><td>81団体</td><td>1,121人</td></tr><tr><td>解説等あり</td><td>2団体</td><td>36人</td></tr><tr><td rowspan="2">学校団体</td><td>自由鑑賞</td><td>26団体</td><td>389人（引率27人含む）</td></tr><tr><td>解説等あり</td><td>20団体</td><td>773人（引率32人含む）</td></tr><tr><td>幼・保</td><td></td><td>3団体</td><td>73人</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>132団体</td><td>2,392人</td></tr></table> 事業効果 ・解説会の希望があればできる限り対応し、展覧会内容の理解を深め、鑑賞者の興味関心を広げる契機となっている。 ・職場体験の受け入れや市内巡見の生徒の質問にも積極的に対応し、美術館の役割や機能の理解に繋がっている。 課題と対応 ・来館者数の多い展覧会については会場内での解説が難しいが、ロビーでの概要解説を行い、少しでも展覧会への理解関心に繋がるよう心掛けている。	一般団体	自由鑑賞	81団体	1,121人	解説等あり	2団体	36人	学校団体	自由鑑賞	26団体	389人（引率27人含む）	解説等あり	20団体	773人（引率32人含む）	幼・保		3団体	73人	合計		132団体	2,392人
一般団体	自由鑑賞		81団体	1,121人																			
	解説等あり	2団体	36人																				
学校団体	自由鑑賞	26団体	389人（引率27人含む）																				
	解説等あり	20団体	773人（引率32人含む）																				
幼・保		3団体	73人																				
合計		132団体	2,392人																				
(6)博物館実習	学芸員資格取得を目指す学生等のための博物館実習を実施し、5名の学生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取扱いの指導も行った。研究課題として所蔵品展の企画を行った。 実施期間：10/16(水)-23(水) ※土日を除く6日間（計 32時間） 受講者数：5人 受入大学：女子美術大学、大東文化大学、新潟大学、長岡造形大学 事業効果 ・資格取得を目指す学生に実習の場を提供するとともに、当館の性格や社会的役割について理解を深めてもらうことができた。 課題と対応 ・施設や所管作品等の制約から当館で実施しにくい講義内容もある。一部講義内容は、近代美術館に出向いての実施として補った。																						
(7)サポートメンバー (ボランティア組織)	美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、新潟県立万代島美術館サポートメンバーを組織している。本年度は広報活動への協力（ポスター、チラシ等の発送作業）のほか、ギャラリートークやワークショップ運営の補助もお願いした。 期間：4/1-（月）3/31（月） 登録人数：13人 活動回数：17回																						

	事業効果 ・様々な美術館活動への参加を通して、館に対する理解を深めてもらっている。 課題と対応 ・担当だけでなく美術館職員全体でサポートメンバーに関わりを持ち、連携を深めることができるよう努める。
(8)その他 化石ハンター展 谷川俊太郎 絵本★百貨展 古代エジプト美術館展 谷川俊太郎 絵本★百貨展	・親子ふれあいデー 子育て世代支援のため、特定日に子供と一緒に保護者2名までの観覧料無料を実施。 ① 8/5 (月) 10:00-13:00 (事前申し込み制・先着150組限定) 参加者 計 370人 ② 2/2 (日) ③ 2/9 (日) ④ 2/16 (日) (事前申し込み制・各日先着50組限定) 参加者 計423人 ・「古代エジプト美術館展」クイズ&スタンプラリー 出品作品のクイズとオリジナルスタンプを集めるラリーを実施。 実施期間：10/11(金)-12/15(日) 実施場所：企画展示室 協力：新潟県立美術館友の会 製作部数 20,000枚 ・記念コンサート 「たにけん sings しゅんたろ〜かわいい歌からおもしろこわい歌、そして泣ける歌まで〜」 日時：1/25 (土) 14:00-15:10 講師：谷川賢作氏 (音楽家) 会場：当館ロビー 参加者 約200人 ・「絵本★読み聞かせ」 日時：2/9 (日) 11:00-11:30 読み手：UX新潟テレビ21アナウンサー 会場：展示室 参加者 54人 ・「谷川俊太郎 絵本★百貨展」ガイドマップ 親子で展覧会を楽しむポイントを記載した、ガイドマップを会場入口で配布。 製作部数 10,000枚 ・ワークショップ「ことばであらわそう！オノマトペ」 所蔵品から聞こえてきそうな音を「ことば」で書くワークシートを作成し、会期中設置。

	事業効果 ・クイズ&スタンプラリーは子供だけでなく大人も多く参加し、教育普及の効果が高かった。 ・コンサートや読み聞かせなど多彩なイベントの実施で、利用者の満足度が高かった。 課題と対応 ・親子ふれあいデーは回数を重ねて次第に周知されてきているが、無料になるというメリットばかりが表に立ち、こどもたちの文化に触れる機会の充実という目的がどこまで浸透しているか疑問である。今後の実施内容については、普及担当と文化課が意見交換して改良していくことが望ましい。																														
教育普及参加者数	<table><tr><td></td><td>事業名</td><td>参加者数</td></tr><tr><td>(1)</td><td>講演会・トーク等 (8件)</td><td>449人</td></tr><tr><td>(2)</td><td>ワークショップ (1件)</td><td>20人</td></tr><tr><td>(3)</td><td>出前講座 (4件)</td><td>305人</td></tr><tr><td>(4)</td><td>作品解説会 (2件)</td><td>44人</td></tr><tr><td>(5)</td><td>団体来館 (132件)</td><td>2,392人</td></tr><tr><td>(6)</td><td>博物館実習 (1件)</td><td>5人</td></tr><tr><td>(7)</td><td>サポートメンバー (13件)</td><td>17人</td></tr><tr><td>(8)</td><td>その他 (9件)</td><td>1,047人</td></tr><tr><td></td><td>合計</td><td>4,279人</td></tr></table>		事業名	参加者数	(1)	講演会・トーク等 (8件)	449人	(2)	ワークショップ (1件)	20人	(3)	出前講座 (4件)	305人	(4)	作品解説会 (2件)	44人	(5)	団体来館 (132件)	2,392人	(6)	博物館実習 (1件)	5人	(7)	サポートメンバー (13件)	17人	(8)	その他 (9件)	1,047人		合計	4,279人
	事業名	参加者数																													
(1)	講演会・トーク等 (8件)	449人																													
(2)	ワークショップ (1件)	20人																													
(3)	出前講座 (4件)	305人																													
(4)	作品解説会 (2件)	44人																													
(5)	団体来館 (132件)	2,392人																													
(6)	博物館実習 (1件)	5人																													
(7)	サポートメンバー (13件)	17人																													
(8)	その他 (9件)	1,047人																													
	合計	4,279人																													
4 調査・研究事業 (1)調査	【展覧会関連】 ・5/9 (木) 「junaida展」会場視察 (市立伊丹ミュージアム) 濱田真由美 (専門学芸員) ・9/16(月)-17(火) 「谷川俊太郎展」調査 (高松市美術館) 松本奈穂子 (主任学芸員) ・10/2(水) 「三の丸尚蔵館展」作品調査 (三の丸尚蔵館) 藤田裕彦 (館長) ・10/17(金) 「さくらももこ展」会場視察 (森アーツセンターギャラリー) 伊澤朋美 (主任学芸員) ・11/19(火) 「田畑あきら子展」資料調査 (県立図書館) 松本奈穂子 (主任学芸員) ・11/29 (金) 「ポップ・アート展」調査 (福島県立美術館) 澤田佳三 (専門学芸員) ・12/4 (水) 「田畑あきら子展」資料調査 (巻郷土資料館) 松本奈穂子 (主任学芸員) ・12/19 (木) 「動き出す浮世絵展」調査 (寺田倉庫) 澤田佳三 (専門学芸員) ・2/6 (木) -7 (金) 「田畑あきら子展」作品調査 (東京都個人宅、広島県個人コレクション) 松本奈穂子 (主任学芸員) ・3/11 (火) 「田畑あきら子展」資料調査 (砂丘館) 松本奈穂子 (主任学芸員) 【作品・作家調査】 ・5/9 (木) 林昭三作品調査 (新潟市内) 伊澤朋美 (主任学芸員)、池田珠緒 (近代美術館専門学芸員) ・5/10 (金) 石内都作品調査 (大阪市内) 濱田真由美 (専門学芸員)																														

	・5/16（木）-17（金）久保田成子関係者インタビュー（東京都内） 濱田真由美（専門学芸員） ・6/17（月）西垣維新作品調査（新潟市内） 澤田佳三（専門学芸員）、飯島沙耶子（近代美術館主任学芸員） ・7/4（木）西垣維新作家・作品調査（新潟大学、県立図書館） 澤田佳三（専門学芸員） ・7/10（木）西垣維新作家・作品調査（近代美術館、長岡市立中央図書館） 澤田佳三（専門学芸員） ・7/10（水）山内倉蔵作品調査（五泉市内） 伊澤朋美（主任学芸員）、池田珠緒（近代美術館専門学芸員） ・7/17（水）個人コレクション（寄贈希望）作品調査（新潟市内） 濱田真由美（専門学芸員） ・7/24（水）西垣維新作品調査（新潟市立万代高等学校） 澤田佳三（専門学芸員） ・8/10（日）石内都作家・作品調査（大川美術館） 濱田真由美（専門学芸員） ・9/10(火) 三沢厚彦作品調査（神奈川県藤沢市個人宅） 藤田裕彦(館長)、伊澤朋美（主任学芸員） ・9/25(水) 吉原悠博作品調査（新潟市内個人宅） 藤田裕彦(館長)、濱田真由美（専門学芸員） ・10/31（木）山内倉蔵参考作品調査（五泉市内） 伊澤朋美（主任学芸員）、池田珠緒（近代美術館専門学芸員） ・1/23（木）武石弘三郎文献調査（県立図書館）伊澤朋美（主任学芸員） ・1/31（金）武石弘三郎作品・資料調査（早稲田大学、国会図書館） 伊澤朋美（主任学芸員）
(2)図録執筆	該当なし
(3)研究紀要	『新潟県立近代美術館研究紀要』第23号（新潟県立近代美術館、3月7日発行） 「萬鐵五郎の宗教熱 ―― 青年期の日記に見る参禅の前夜」澤田佳三（専門学芸員）
(4)寄稿	『大矢紀日本画展』（伊勢丹新潟、9月9日発行） 「自分の眼と言葉」澤田佳三（専門学芸員） 【新聞】 ・3/21（木）新潟日報「展覧会へようこそ コシノジュンコ 原点から現点」澤田佳三（専門学芸員） ・4/19(金) 新潟日報「展覧会へようこそ 卒寿記念 鍔金 原益夫展」藤田裕彦(館長) ・8/23(金) 新潟日報「展覧会へようこそ 化石ハンター展～ゴビ砂漠の恐竜とヒマラヤの超大型獣～」伊澤朋美（主任学芸員） ・11/26(火) 新潟日報「展覧会へようこそ 古代エジプト美術館展」濱田真由美（専門学芸員）

	・12/10（水）新潟日報「展覧会へようこそ 雪梁舎工芸 2024・次代を担う若手作家」藤田裕彦（館長） 【学芸ノートB版（HP内で掲載）】 *当館ホームページ「トピックス欄」で連載。開催展や所蔵品、調査研究の成果などについて執筆。 ・4/29（月・祝）「① 亀倉雄策が愛したイッタラ作品」濱田真由美（専門学芸員） ・5/22（水）「② 開館20周年を振り返る⑦ 所蔵品展「ゴヤ版画展」「美術の森」」澤田佳三（専門学芸員） ・8/1（木）「③ そこまで難しくはないけれど、理解するのに多少時間のかかる現代美術の話②「ポップアートって何？あるいは当館所蔵作品のポップアートの遺伝子について」前編」藤田裕彦（館長） ・8/15（木）「④ そこまで難しくはないけれど、理解するのに多少時間のかかる現代美術の話②「ポップアートって何？あるいは当館所蔵作品のポップアートの遺伝子について」後編」藤田裕彦（館長） ・12/10(火)「⑤ 開館20周年を振り返る⑧ 一人の学芸員との別れ」澤田佳三（専門学芸員） ・1/1（水）「⑥『ピーナッツ』ブックスと谷川俊太郎「谷川俊太郎 絵本★百貨展」に寄せて」藤田裕彦（館長） ・2/1（土）「⑦ 岡田竹弘斎を知っていますか?① 新潟県立近代美術館「皇室の名宝と新潟」に寄せて」藤田裕彦（館長） ・2/7（金）「⑧ 岡田竹弘斎を知っていますか?② 新潟県立近代美術館「皇室の名宝と新潟」に寄せて」藤田裕彦（館長） ・2/15（土）「⑨ 岡田竹弘斎を知っていますか?③ 新潟県立近代美術館「皇室の名宝と新潟」に寄せて」藤田裕彦（館長） ・3/12（水）「⑩ 小さなメダルが語るもの一文芸委員会賞牌」伊澤朋美（主任学芸員） 【トツときガイド】 ・2024年7-8月号「企画展「化石ハンター展～ゴビ砂漠の恐竜とヒマラヤの超大型獣～」伊澤朋美（主任学芸員） ・2024年11-12月号「企画展「古代エジプト美術館展」」濱田真由美（専門学芸員） ・2025年1-2月号「企画展「谷川俊太郎 絵本★百貨展」松本奈穂子（主任学芸員）
(5)講演・講義等	該当なし
(6)研修	・5/8（水）「大地の芸術祭」に関わる勉強会（県庁）藤田裕彦（館長） ・5/24（金）「伝わる広報」研修（新潟県トラック協会）濱田真由美（専門学芸員） ・11/29(金)「プレスリリース・パブリシティ」研修（県庁）藤田裕彦（館長） ・1/24（金）「広報スキルパワーアップ研修（危機管理広報）」（県庁）藤田裕彦（館長）
(7)会議	・4/26（金）新潟県博物館協議会研究発表会及び総会（ホテル日航新潟）藤田裕彦（館長）、澤田佳三（専門学芸員）

	・6/4（火）第66回北信越博物館協議会/日本博物館協会北信越支部総会・研究協議会（あてま高原リゾート ベルナティオ）藤田裕彦（館長）、澤田佳三（専門学芸員） ・7/3（水）令和6年度全国博物館長会議（第31回）（文部科学省）藤田裕彦（館長） 【NIIGATAアートリンク】 〔連絡会議〕 ・4/22（月）第1回（当館）濱田真由美（専門学芸員）、松本奈穂子（主任学芸員） ・10/30（水）第2回（新潟市新津美術館）濱田真由美（専門学芸員）、松本奈穂子（主任学芸員） ・11/18（月）三館連携事業打ち合わせ(WEB) 濱田真由美（専門学芸員）、松本奈穂子（主任学芸員） ・2/20（木）第3回（当館）濱田真由美（専門学芸員）、松本奈穂子（主任学芸員） 〔教育普及部会〕 ・7/9（火）第1回（近代美術館）濱田真由美（専門学芸員）、松本奈穂子（主任学芸員） ・9/10(火)第2回(WEB) 濱田真由美（専門学芸員）、松本奈穂子（主任学芸員）
(8)学校団体広報活動	・4/19（金）新潟市小学校教頭会広報活動（秋葉区文化会館）濱田真由美（専門学芸員） ・5/10（金）新潟市中学校教頭会広報活動（ホテルサンルート）藤田裕彦（館長）
(9)審査	・11/9(土) 工藝2024審査（財団法人雪梁舎美術館）藤田裕彦（館長） ・11/16（土）工藝2024審査員講評会（財団法人雪梁舎美術館）藤田裕彦（館長） ・2/7（金）第40回新潟デザイン専門学校卒業制作・修了制作展 デザイン展審査（りゅーとぴあ）藤田裕彦（館長）
(10)その他	NIIGATAアートリンク共催事業 ・7/29（月）「令和6年度 鑑賞と美術館—活用のための研修会」（近代美術館）濱田真由美（専門学芸員）、松本奈穂子（主任学芸員）
5 収集・保存	
(1)作品貸出	該当なし
(2)作品収集	近代美術館活動報告にまとめて記載する
6 外部との協働	
(1)コシノジュンコ展	・コラボ企画「スペシャルスイーツ」 期間：2/22（木）-5/26（日） 実施主体：ホテル日航新潟 会場：スカイラウンジ パノラマ（31階 展望室） ・限定コラボボトル「越乃寒梅」（石本酒造）オリジナルラベル
(2)化石ハンター展	・「化石ハンター展ミニコラボカフェ」 期間：7/1（月）-9/16（月・祝） 実施主体：ホテル日航新潟 会場：スカイラウンジ パノラマ（31階 展望室） ・新潟県立図書館で関連書籍コーナー設置 ・上越市立高田図書館で関連書籍コーナー設置

	・糸魚川市民図書館・青海図書館で関連書籍コーナー設置 ・長岡市立中央図書館で関連書籍コーナー設置 ・村上市立中央図書館で関連書籍コーナー設置
(3)古代エジプト美術館展	・新潟県立図書館で関連書籍コーナー設置 ・長岡市立中央図書館で関連書籍コーナー設置 ・見附市図書館で関連書籍コーナー設置 ・上越市立高田図書館で関連書籍コーナー設置
(4)谷川俊太郎 絵本★百貨展	・「谷川俊太郎 絵本★百貨展コラボカフェ」期間：1/17(金)～4/6(日) - 実施主体：ホテル日航新潟 会場：スカイラウンジ パノラマ(31階 展望室) ・新発田市立中央図書館で関連書籍コーナー設置 ・見附市図書館で関連書籍コーナー設置 ・糸魚川市民図書館・能生図書館・青海図書館で関連書籍コーナー設置 ・五泉市立図書館で関連書籍コーナー設置 ・長岡市立中央図書館で関連書籍コーナー設置 ・妙高市図書館で関連書籍コーナー設置 ・新潟県立図書館で関連書籍コーナー設置